

第3回知立市地域福祉計画策定委員会 会議録

令和3年10月7日（木）

午後2時

知立市中央公民館 中会議室

1. 出席者

（出席者）10名

◎楠委員、竹本委員、柴尾委員、石原委員、磯貝委員、永井委員、都築委員、岡田委員

◎事務局 福祉課（課長、係長、主査）

（欠席者）3名（蔭山委員、伊藤委員、新海委員）

2. 議題

（1） 地域福祉計画素案について

（2） 今後の計画策定スケジュールについて

（1） 地域福祉計画素案について

（事務局）

計画案及び事前に委員より提出された意見について説明

（永井委員）

事務局から説明がありました。ご意見があればお願いします。

（岡田委員）

計画案は直さなくてもよいと思う。今後、どこが問題となってくるかを考えていくうえで、人口ピラミッド上、現時点では40歳台が多く、今後人口構成がどう変化していくか。20年後、30年後の人口ピラミッドがあると将来的にどういう社会になるか想定がしやすいのではないかと。今後の計画を推進するうえでの問題点などがわかってよいと思うので、次回にでも想定を示してもらえるとよいと思う。

（永井委員）

計画案自体は問題ないということでしょうか。

（岡田委員）

計画案自体は、これでよいと考えている。

具体的な事例として、知り合いの娘で40歳ぐらいの方がいる。こんな不安な時代に結婚して子供を産んでも、その子の将来が心配だからそういったことは前向きに考えにくいというような話をしていた。そういった不安に対して考えていくためにも知立市の将来の状態が

少しでもイメージできるとよいと思う。

（事務局）

事務局から補足。長期的な見方をしていくことも必要というご意見かと思う。人口の視点では計画案の11ページ上段。R22年まで掲載している。65歳以上が増えていくことが想定されている。15～64歳、稼働年齢層。はどんどん減っていく想定。そういう中で地域で互いに支えあう。高齢者だからと言って支えられるのみということではないまちを作ることが求められるのかなと考えている。

（岡田委員）

出生率が下がると学校の統廃合を考えていくとか、子育てに関しても問題点が出てくる可能性もある。ピラミッド図のほうを理解しやすいと思うのでぜひお願いしたい。

（永井委員）

第2次のアンケートも見た。人口ピラミッドや人口推計も時間経過によりそのまま上がっているようなイメージに見える。岡田委員の意見から思ったのは、知立市の中で明るい未来があるかということを考えたときに知立市は若い世代が多いと聞くことが多い。人口が増え、住宅が増えていく中で農地などは減っている印象で、地産地消というやりかたは難しいのかもしれないと感じる。

（竹本委員）

コロナの影響で生活困窮の方が多くなっている。コロナ禍で計画を作ることであれば、自立支援の現状課題の中で、コロナ禍で困っている人を助けていく必要があるということも触れていけるとよいのでは。

また、計画中に成年後見制度利用促進計画と再犯防止推進計画の2つの別計画が載っているがこれは何か。

（事務局）

各法において成年後見制度利用促進計画、再犯防止推進計画という促進のための計画を作ることが求められている。地域福祉計画というのが住民と一体となって地域を推進する計画であることや福祉の上位計画であることから地域福祉計画の中に一体として策定することが国のガイドライン上で示されている。突然現れる感じはすると思うが、各施策の中で特にその計画にあたる部分を明に示している形。統計、分析については計画上一体となり、成年後見、再犯防止にかかる施策を書いている部分となっている。

（岡田委員）

少しわかりにくかったが、各施策の推進が法令に定められているからあわせてやっているというような形として理解したが。実態としては保護司であるとかそういう人たちが中心となるのではないかな。

(事務局)

再犯防止においては保護司に担っていただく部分も大きいので、保護司との連携強化というところもある。

(永井委員)

第二次のときにはこれを計画として策定していくということがなかったということによいか。

(事務局)

犯罪率は下がっているが、再犯率が下がらない中、再犯の防止が国レベルで課題となっており、再犯防止の推進が求められている。

(永井委員)

各計画を地域福祉計画と一体とやっていく必要がわかるような形になるとよい。例えば成年後見であれば、市民後見や住民の理解が必要だということなど、一体となって進めていく必要があることを今後、表現していけるとよいと思う。

何もわからない人が読んだときに分かりにくいと、パブリックコメント等においても意見が出づらと思う。

(岡田委員)

なるべく文章のみより図式などあると理解しやすいと思う。

(楠委員)

成年後見や再犯防止などの推進には地域の協力が必要だと思う。DV や虐待もそうだが、どうしてあげたらよいのかわからないと何もしてあげられない。困っている人が市役所に行かないと利用できない制度というのは利用しにくい。引っ越しして来られる方、転入の手続きの人にも地域の雰囲気や地域の支援や相談ができる場所など教えてあげられるとよいと思う。若い人たちでどこにも相談していいのかわからずに困っている人もいるように感じる。町内会に入ってもらうことも必要と考えているが、今の形は区長等に負担が大きく、今のままでは続かないと思う。地域を続けていく、推進していくことをどう支援していくことが必要だと思う。

(磯貝委員)

住宅が増える中、地域の中のことがわからない部分が増えている。障がいや高齢で課題を抱えている可能性が高い世帯なども地域で把握できていないと思う。各種支援団体になんらか情報提供できる仕組みがあれば支援や相談も行き届きやすくなるのではないかと思う。地域のことを知らない人も多い中、いろいろな情報提供があるとよい。相談するところも地域でなかなかないので、そういうところもあったらよい。

(楠委員)

地域の中で気軽な相談ができるとよい。そういうことを考えているのかとは思いますが、具体的なことが計画にないと進まないのではないかと思います。

(磯貝委員)

民生委員がいるのも理解はしているが、支援団体にも情報提供できるような仕組みを考えてもらえると団体としても支援しやすいので助かると思う。

(楠委員)

障害の申請されている方に民生委員や区長までを紹介しているか

(事務局)

手帳交付時に障がい者への施策や事業所が書かれた資料を渡して説明している。民生委員や区長までは紹介していないのが現状。

(楠委員)

子の手帳をもらうとき親の立場としてはこれまでの状況が一変するような感覚がある。将来のことを考えられるまで状況を受け入れられるような状況になるには時間がかかることもあると思う。手帳をもらうタイミングだけではもらった資料のことについて考えるほどの余裕がないと思う。落ち着いてから考えることができるタイミングでの情報提供も必要ではないか。障がいなど支援が必要となる対象が把握できている場合は制度の利用についてピンポイントで投げかけていくといったこともあってもよいのではないか。

(事務局)

近年、アウトリーチが必要ということが考え方として広まってきている。従来は福祉施策を使いたい場合は申請に来てもらうという考え方でできていた。困っている人に対してこちらから働きかけるということが求められているところであり、見直していかなければならない部分だと思っている。

(楠委員)

考え方を計画に落とし込んでいくということは必要ではないかと思う。

(永井委員)

考えれば考えるほど細かい問題があふれてくる。すべてを計画に書いていくことは難しいが、その中でもより分かりやすい表現、図式になっているとよいと思う。

市と社協が一体策定となっているが、計画は市、活動は社協というような話を聞いたことがある。一体で策定していくことの意味があるような形で進めていけるとよいと思う。

計画をやれるように努力していくことが重要だと思う。

(岡田委員)

市は町内や区長のことがわかっていないのではないか、という話が合った。その通りだと思う。今、町内に来る情報は避難行動要支援者の情報ぐらい。民生委員でもそれに高齢者の

情報ぐらい。町内会の加入率は地域によって違うが6割とかの地区もある。個人情報ということで情報がもらえないので、支援が必要な状況とかがわからない。逆に情報があればできることもあると思う。その辺の難しさもあると思うが、連携を密にしていけることができるようなことが考えていけるとよいのでは。

(磯貝委員)

相談先を知っている人や周りから紹介されるといったことがあれば、相談できると思う。障がい者の問題であれば障がい者同士でこそ分かり合えるものもあると思う。そういうコミュニティの存在などを紹介してあげられるとよいと思う。

(楠委員)

障害を受け入れられない人もいっぱいいると思うので、そういったことも壁になっているのではないかと感じる。先ほど磯貝委員から訪問歯科のことなども教えてもらえたが、こういう情報の共有ができていくことが求められると思う。

(永井委員)

地域福祉の問題点、課題点いっぱいあると思う。多岐にわたる課題がある中、ここでは意見を拾いきれない部分もある。計画案についてはよいかと思うが、幅広い意見を聞きながら計画を推進していったほしい。

(2) 今後の計画策定スケジュールについて

(事務局)

策定スケジュールについて説明。

(竹本委員)

今回の意見を経て、表現等修正する部分もあると思う。パブリックコメントを実施していくにあたり、実際にパブリックコメントにかけられる計画案を配ってはどうか。

(永井委員)

計画の流れ自体は変わらないと思うが、誤字・脱字の修正や表現の見直し等、こういった形で直されたかを見たいということかと思う。

(事務局)

委員宛に送付させていただく。